見守り活動ＮＥＷＳ！

＜第９号事例紹介＞
2025.6.1 発行
千葉市社会福祉協議会

見守り活動実施中の地区部会に、令和６年度中に「見守り活動に係わる事例をご提供ください」とお願いしたところ、１０か所の地区部会からご紹介をいただきました。お忙しい中、ご協力いただきありがとうございました。

「感謝されたこと」「役に立ったこと」「残念だったこと」など、様々な事例をご紹介いただきました。皆様のご参考になればと思い、事例の一部を掲載させていただきます。

なお、個人情報保護の観点から、一部内容について加工させていただいています。ご理解くださいますようお願い申しあげます。

事例１	見守り対象者	Ａさん（女性・７０歳代）
	異常サイン	対象者が道端で歩けなくなっていた。
	対応状況	対象者宅まで支援員が同行。同時に救急車を呼ぶも対象者は救急搬送を拒否
	対応結果	対象者が救急搬送を拒否したため、救急隊は撤退した。本人は支援を受ける意思を示さなかったが、改めて民生委員が対象者宅を訪問すると、対象者が自宅で横転していた。医療機関へつなげたところ、骨折していることが判明し、入院を開始する。

事例２	見守り対象者	Ｂさん（８０歳代）
	異常サイン	雨戸がしまったままになっている。
	対応状況	対象者の親族へ連絡する。
	対応結果	日頃から見守り対象者と密にコミュニケーションをとっており、対象者宅の雨戸が開かなければ、速やかに対象者の親族に連絡するよう対応を共有していた。 親族へ連絡後、安否確認を実施したところ対象者は残念ながら亡くなっていたが早期に発見できた。

事例３	見守り対象者	Ｃさん（女性・８０歳代）
	異常サイン	頻繁に小火（ぼや）が発生。近隣住民との会話がかみ合わない。
	対応状況	ケアマネジャーへ連絡し、今後の方針を本人と協議する。
	対応結果	対象者は施設入所等を希望せず、居宅生活の継続を希望する。 公的機関と連携し、引き続き見守りを続けている。

≪裏面もご覧ください≫

事例４	見守り対象者	Ｄさん（７０歳代）
	異常サイン	対象者が地域に居住し始めた当初（居住 20 年）から、人との関わりを避けている。
	対応状況	間接的な見守りを継続する。
	対応結果	対象者は支援員の訪問に応じないことから、居宅の照明の消灯および点灯での安否確認を継続する。

事例５	見守り活動実施中の地区部会が、活動の再構築のためにアンケートを実施した事例です。	
	対応状況	見守り対象者、見守り活動従事者、町会・自治会の方を対象にアンケート調査を実施し、見守り活動の課題発掘を行う。
	対応結果	対応状況の通り、約１，０００人を対象にアンケート調査を実施する。調査の結果、見守り活動が認知されていない等の課題発見につながった。また、将来的に見守りの活動への従事または見守り活動の対象者となることについての意向を確認することができた。 調査結果を町会・町内自治会等への報告会にて情報共有し、今後の活動に活かす取り組みを行う。

皆様の日々の活動や気づきが、高齢者の孤立死・孤独死、社会的孤立を未然に防ぎ、安心・安全な地域づくりにつながります。

住み慣れた地域で、地域の実情を理解している住民の皆様が、日常生活の中でお互いにさりげない目配り・気配りや声かけを通して、『向こう三軒両隣』の関係づくりを続けていきましょう。

＜参考＞

－見守り活動実施地区部会及び町内自治会数－

区　　名	実施地区部会数	実施町内自治会数
中央区	１４地区部会	１６１町内自治会
花見川区	８　〃	２５　〃
稲毛区	８　〃	２９　〃
若葉区	６　〃	３６　〃
緑　　区	４　〃	１１　〃
美浜区	５　〃	３４　〃
合計	４５地区部会	２９６町内自治会

〔令和７年５月現在　千葉市社会福祉協議会把握分〕